

7. まとめ

7.1 本年度の成果

(1) セミナー教材の充実

本年度は、昨年度の成果と課題を受け、保護者向けテキスト部分を中心に大幅に改訂作業を行った。最新の状況を紹介する部分のデータをアップデートすると共に、保護者向けテキスト部分の内容に落ちや重なりがないように構成を全面的に見直し、よりセミナーの中で使いやすいものとした。

また、各委員が使用するプレゼンテーション教材も、昨年度の反省を生かして改訂していただき、より子どもたちや保護者の問題意識を喚起し、情報モラル教育について理解していただきやすいように改訂することができた。

(2) セミナープログラムの改善

本年度は、昨年度の反省を踏まえ、ワークショップなどの活動を積極的に取り入れ、「聞きっぱなし」とならないよう、セミナーの内容を工夫した。また、セミナーの時間が限られていることから、テキストを網羅的に扱うのではなく、情報モラル教育のポイントを中心に解説し、「内容が多すぎてわかりにくい」ということのないよう留意して実施していただいた。これらの各委員の努力の結果、子どもたちからはもちろん、保護者からも大変高い評価をいただくことができた。

(3) セミナー以外でも使える「リーフレット」の開発

(2)で触れたようにセミナーの時間に限りがあることから、「情報モラル」の具体的な内容について、セミナーの時間内にすべてを扱うことは困難であり、セミナー受講前や受講後に利用できる教材が必要であった。また、近年、子どもたちが最も利用しているケータイに関する具体的な「情報モラル」の具体的な内容を網羅的に指導したいとのニーズがあるものの、そのような条件を満たす教材は、存在しなかった。

そこで、本委員会では、携帯電話に関する具体的な情報モラルの内容を網羅的に扱いつつ、短時間で利用でき、わかりやすい教材として、イラストを多用しゲーム性も盛り込んだ「ネット展開用リーフレット」を開発した。本リーフレットは、ネット上でそのまま利用できると共に、カミに印刷すると裏表印刷1枚に収まるようにして、授業や家庭で利用しやすいものとした。その結果、授業や家庭で利用していただき、さらなる「情報モラル教育」の充実へ向けての活用事例が増えてきた。

7.2 次年度へ向けての課題

(1) 開催地のさらなる増加・指導者研修の実施による「面」展開

平成21年度は開催地を平成20年度の2倍以上に当たる14カ所に増やすことができたが、全国レベルで言うと、まだまだ「点」の状況である。今後は、従来型の学校単位での開催の他、本年度上越市で開催した教員やPTA役員など核となる保護者、地域ボランティアを対象とした「指導者研修」も実施して自立展開可能とし、より多くの保護者・地域住民が参加できるようにして「面」展開させていくことが必要である。このような「面」展開としては、PTA連合会での主催や中学校区の小学校・中学校の共催、教育委員会による開催等も考えられる。

(2) 自立展開支援のための教材提供

今後は、(1)の「面」展開を可能とするため、本委員会委員がセミナー講師を務めるだけでなく、各地域において、教員や保護者、地域ボランティアが「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を自立展開できるように、そのための教材を提供していく必要がある。

今後提供を期待したい教材としては、教員向けを想定している Web 教材「ネット社会の歩き方」を全面改定して保護者や地域ボランティアも使用しやすいものとすることや最新の状況を反映した教材を提供したもの、セミナー用読み上げ原稿付きプレゼンテーション教材、ワークシート、発達段階や地域の状況・対象の状況に応じた複数のモデルプログラムなどが考えられる。

今後は、これらの教材を開発すると共に、実際にセミナー等で利用した評価を踏まえ改善したものを提供していくことが期待される。